［有明抄］（2018.10.24）

年　　組　　号（氏名）

○　次の語句の読み方と意味をまとめよう。

語　句	読み方	意　　味
由々しき	しき	
計　上		
恣意的		
故意性		
悪　弊		

○　最後の行「笑い話」とは、どういうことがなぜ「笑い話」なのか。国税庁を主語にして説明してみよう。

国税庁は　　ので（のに）

〝数〟に厳格なはずなのに、

だから笑い話である。

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

有明抄

「極めて由々しき事態」。この言葉を、この国のお役人たちはどう受け止めただろうか◆中央省庁で障害者の雇用数が水増しされていた問題。第三者検証委員会の検証結果を聞いて「何と言うことだ」と言葉を失った人も多いだろう。不正計上は昨年6月時点で国の33行政機関のうち実に28機関で計3700人。このうち9割以上が国のガイドラインで定めた障害者手帳や指定医による診断書を持っていなかった◆その数には退職者91人が含まれ、3人は死亡していたという。報告書は「障害者の範囲や確認方法を恣意的に解釈」と断じたが、元福岡高検検事長松井厳委員長は「意図的な対応は把握していない」「故意性は認定できない」◆恣意的、つまり「そのときの思いつき」で障害者の数を勘定はしたが、決して「悪意や思惑を持って」たくらんだのではない―という判断である。言葉は大事だが、これが意図的、故意ではないとは…。要するに「毎年、適当に数えていた」ということではないか。そのうち必ず悪弊は繰り返す。改善は期待薄である◆本来、障害者雇用のお手本となるべき役所でなぜ、こういうことができるのか。自分には関係ないこと、無関心だからだ。全部で1103人と不適切計上が突出していたのが〝数〟に厳格な国税庁だったとは、笑い話か。罪深いことである。（賢）

35　30　25　20　15　10　5